

椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第 37 号

令和7年6月28日発行
長野県諏訪郡富士見町落合
発行人 小池博之
印刷 杏花印刷



令和6年度、第三次遺骨収集派遣先の、マダン州ボギア地区「ボダ村」より「マナム島」を眺める

(当会 会員 滝沢祐一氏撮影)

「マナム島」はハンサ湾に浮かぶ活火山で、将兵が故郷の富士山に見立て「ハンサ富士」と呼んでいた。戦後80年、「マナム島」は戦没者の故郷へ寄せた深い思いを今に伝える証人である。

戦後80年と長野県ニューギニア会

今年は戦後80年、昭和100年の節目の年となり、各方面で記念の催しなどが企画されたり、執り行われている様子が報道されているのを耳目する。

長野県ニューギニア会も、終戦後の昭和44年2月11日に「東部ニューギニア会長野県支部」として設立され、昭和46年には「長野県ニューギニア戦友会」と改め、55年には「二世会」も発足したが、平成5年に現在の「長野県ニューギニア会」に統一された。先の大戦（広義には第2次世界大戦・日本では大東亜戦争・アメリカでは太平洋での戦いだったため、太平洋戦争と呼び、連合国の占領を受けてからは日本でも太平洋戦争と呼ぶようになった）では県内三千四百七十四柱の尊い命が失われ、それを慰霊するために、今日まで綿々と続き今年で57回目の慰霊大祭を迎えることとなった。その間、

県護國神社に「嗚呼戦友」の碑建立、現地ニューギニアのコイキンマリツクの丘に観音像建立、戦没者芳名板の設置、碑の改修工事など多くの事業を成し遂げてきた。また昭和52

思う御遺族の切なる慕情の表れだと思う。
近年会員の減少が顕著に表れ、慰霊祭の規模縮小や、現地慰霊巡拝は会独自での催行はできず、国の事業も今年5月の「洋上慰霊」（長野県関係では、付き添いも含め8名参加）が最後となり往時を追懐して残念な限りだ。

57回の時を刻んだ「長野県ニューギニア会」の慰霊祭は規模は縮小しても、慰霊の灯は変わらずに燈し続けて、御霊を鎮めべく会員の皆さま共々、地道に歩み続けていきたいと思う。そして、世界恒久平和も!!

1991年に始まり、ニューギニアを含む、中国、フィリピンなど多くの国や地域を訪ね全国約1万6千人余が参加）などを含めると40回を超える現地慰霊巡拝が続いたのは、夫を思い、親を思い、伯父を

▽第57回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭

並びに通常総会開催のお知らせ

長野県ニューギニア会では会則により、ニューギニア方面戦没者慰霊大祭と、通常総会を左記のとおり開催いたします。

記

●慰霊大祭 日時 令和7年7月27日（日）

午後1時より 護國神社本殿

●通常総会 慰霊祭終了後引き続き直ちに開催

致します。 美須々会館

大勢様のご参加で意義深い慰霊祭と、総会に致しましょう。

「西部ニューギニア親善友好訪問団」訪問記

平成3年から始まった太平洋戦争激戦地への慰霊友好親善事業も35年経った令和6年度をもって終息することになりました。

本年2月3日から12日まで、本企画によるインドネシア共和国・西部ニューギニア地区への最後の親善訪問団が派遣され、この団員として現地へ赴いた当会顧問・横田久氏がご都合によりご自身でレポートを取りまとめることが困難となりましたので、代わりにまとめた私（副会長・長田）の拙文によって現地状況をご賢察いただければ幸いに存じます。

【親善訪問第一日目】

2月3日

○結団式 13:10 九段会館にて（山下団長、日本遺族会理事・長崎県連合遺族会長以下8団体14名の親善訪問団）



結団式（山下団長挨拶）

【親善訪問第二日目】

2月4日

○空路 11:58 羽田空港
出航、インドネシア・ジャカルタ 17:30 到着
国内便空港へ徒歩移動
○2022年1月、インドネシア政府はインド

○大型バス 15:30 靖國神社昇殿参拝、集合写真撮影
○宿泊 ホテル・相鉄グランドフレッサ東京ベイ有明泊 18:00 夕食会

ネシア共和国首都について、ジャカルタから東カリマンタン州ヌサタラに首都移動を宣言した
（日本との時差-02:00）
人口2億2700万人（世界第4位）

【親善訪問第三日目】

2月5日

○空路 00:48 出航
06:45 途中ソロン寄航
08:40 マノクワリ到着
○専用バスで マノクワリ地区慰霊巡拝
マノクワリ初期兵站病院跡地で 個人慰霊祭



個人慰霊祭（地元の人たちと）

○宿泊 15:00 チェックイン
スイスベルホテル・

マノクワリ泊
○マノクワリ市について（日本との時差00:00）
人口13万6千人 イン
ドネシア共和国西パプア州都として近代化され繁栄している

【親善訪問第四日目】

2月6日

○空路 09:00 マノクワリ空港発 10:20 ジャ
ヤプラ着 専用バスで市内へ
○専用バスで コタバル地区・ジャヤプラコタバル（アベプラ）で個人慰霊祭



アベプラ慰霊碑前にて

ネタール地区・ジャヤプラ
ネタールで個人慰霊祭

○宿泊 グランド・アリソンホテル泊
○ジャヤプラ市について（旧名ホーランジャヤ日本との時差00:00）
人口31万6千人
インドネシア共和国パプア州都であり、この地区の中核都市として繁栄している

【親善訪問第五日目】

2月7日

○専用バス 09:30 小学校「SD Neger Impres Abeal 1」訪問 生徒のダンスで一行をお出迎え 校長先生と山口訪問団団長挨拶 記念撮影



ネタール・センタ二湖畔にて

○宿泊 ジャヤプラ
ランドアリソンホテル
泊
○ゲニム地区 (Genyem)



追悼文を読み上げる山下団長

生徒数415名(14教室)
11:40ゲニム地区にて
個人慰霊祭



小学生のダンスなどで歓迎お出迎え

【親善訪問第六日目】

2月8日

ジャヤプラから西南方向、セントニ湖畔の景勝地 日本軍は連合軍の飛石作戦によりさらに西方のアイタペ・サルミ方面へと苦難の陸路を転進していった

○空路 10:00 ジャヤプラから 10:50 ビアクヘ

○専用バス 13:40 ビアク島西洞窟 パプア州

北西部のビアク島地区
戦跡巡拝



ビアク島西洞窟入り口にて

14:40 旧モクメルの飛行場視察



モクメルの旧飛行場視察

○15:20 パライの日本政府建立「第二次世界大戦慰霊碑」で清掃活動

○宿泊 スイスベルホテル・チャンデラワシビアク

○ビアク島 かつて日本軍の飛行場があり、激しい戦闘があった。ここはメラネシア人が多く居住し、キリスト教徒の多い島である(人口約11万3千人)

【親善訪問第七日目】

2月9日

○専用バス 10:40 「慰霊碑」前で訪問団全員の披露、歓談

による全戦没者追悼式・拝礼



日本政府建立「第二次世界大戦慰霊碑」で追悼式

○ホテル (ミーティングルーム) にて来賓を迎えて懇談会

来賓・観光省から Alex Rumkabu MR と Rumpaidus MR の二名

SD YPK Sorido 小学校校長先生: Mansal la Korwa MS、

教師: Since Aponno MS および十一名 生徒10名

計13名

生徒によるダンス・歌の披露、歓談



観光省A.Rumkabu MR.小学校 M.Korwa MSほか

【親善訪問第八日目】

2月10日

○空路 11:50 ビアクから13:10 スラウエシ島・マカッサルへ

○専用バス マカッサル市内視察 マハカベ邸の戦争犠牲者慰霊碑にて個人慰霊祭



マカッサルマカハベ邸の戦争犠牲者慰霊碑での孤児慰霊祭

○宿泊 ホテル・サン
デイカマカッサル



ホテルでの夕食時に
友好慰霊巡拝活動の感想

○マカッサルについて
スラウエシ島南部の都
市 南スラウエシ州の
州都
人口134万人（時差-01
00）

【親善訪問第九日目】

2月11日

○空路 09:24マカッサ
ルから 10:40バリ島
デンパサールへ
○市内視察と買い物 デ
ンパサール・ビンタン
バリリゾートとクリス
ナオレオレバリの散策
○空路 20:45デンパ
サールから 21:03

ジャカルタ空港へ
○デンパサールについ

て・バリ州州都 バリ
島南部のリゾート都市
人口720万7千人（時差
-01:00）

【親善訪問第十日目】

2月12・13日

○空路 00:00ジャカル
タから 09:13東京・
羽田へ

○解団式 10:00羽田空
港ロビーにて

○山下団長の解団挨拶あ
と慰霊巡拝団員はそれ
ぞれ自宅への帰路につ
いた



羽田空港ロビーにて解団式

▼事務局から

・次の方から寄付をお寄
せいただきました

（順不同）

松森 良造様
佃 美由紀様
田本 正人様
小池 権衛様
有難うございました

・次の方が新たに入会さ
れました

山本 健一様（上田市）

会の活動にご協力賜る
よう宜しくお願いいたし
ます

書籍紹介

■アジア・太平洋戦争の跡を訪ねて

戦後80年に当たり、戦
争の記憶を今に伝える書
籍、「アジア・太平洋戦
争の跡を訪ねて」を紹介
いたします。

著者の唐澤昌弘氏は世
界各地の戦跡を訪ね20年
余の歳月を費やし刊行さ
れました。

戦争の実態を具に見つ

めるに相応しい書籍です。

A五判204ページ価

格は二千円です。

問い合わせ

☎0268-384693

及び、ニューギニア会事務局

☎026-286-2810

まで。

■椰子の記

当「長野県ニューギニ
ア会」が平成9年6月に
刊行した「椰子の記」が
事務局の手に6部あり
ます。

御入用の方は、慰霊祭
当日用意をしておきます
のでお申出ください。

内容は、戦友の方々の
生々しい記述や、ご遺族
の皆さまの切実な思いも
綴られています。

当会発足当時から年
次表や、東部ニューギニ
ア第十八軍隷下部隊情況
表。第1回目の慰霊巡拝
から20回目までの巡拝参
加者名簿も記載されてお
ります。

価格は発刊当時と同じ
2千円です。

※竹村氏の椰子の実はお休みとなります

時時刻刻

五月中旬に枝豆の種を蒔き、
六月中旬にはオクラの種を
蒔いた。いずれも適度のお湿
りがあつたためなのか発芽率
が良好で、早くも収穫の時
期が待ち遠しくなつた。★今
から57年前に「長野県ニュー
ギニア会」が蒔いた種は、鮮
やかな大輪の花であつたり、
小さな芥子粒の様な花であつ
たりと、57年の歳月はその
時折変わりはあつても、宿根
草の様に小さくとも毎年花
を咲かせることに、意義があ
ることだと思ふ。★そんな可
憐な小さな花であつても会の
皆様と一緒に草を取り、水を
撒き、地道に末長く、育て
ていきたい★今、世界の彼方
此方で紛争の芽が顔を出し
ている。そんなニュースを聞
くにつけ、人間とは、人種と
は、宗教とは、富とは、欲と
は、はたまた権力とは、と考
えさせられる★そんな芽は
皆の力で摘み取らなければ。
芽を摘む勇氣も、花を咲か
せる努力も、穏やかで心地よ
い平和な世界にすることに、
変わりはないのだから。